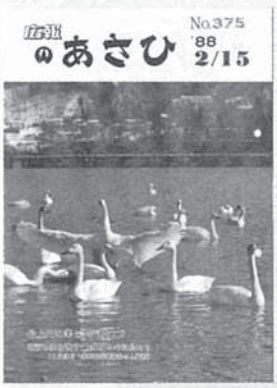
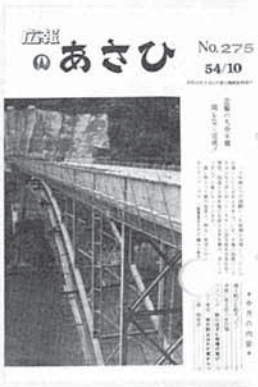
広報のあさひ

No.400

'90 3/15





おかげさまで
発刊400号を
迎えました。
今後も、まちの笑顔を
お届けします。

3月21日から30日まで『なつかしの広報と写真展』
を中央公民館で開きます。ごらんください。

広報あさひ
400号記念特集

アンテナをさらに高く

町の情報紙「広報あさひ」を語る

町と茶の間のかけ橋として

創刊号の中ページ

朝日町誕生いらい、町政と茶の間を結ぶかけ橋として発行されている「広報あさひ」が、今月で四百号を迎えました。

この歩みは、三十六年余に及ぶ町づくりや私達のくらしぶりを刻む、貴重な足あとでもあります。

今月は四百号を記念して、先に行われた広報読者アンケートの結果などを交えながら、「広報あさひ」について現旧広報委員の方々に語りあっていただきました。

◇司会　「広報あさひ」も町民みなさんのおかげで四百号を迎えることができました。昭和二十九年十一月の創刊号いらい、常に私たち町民に根ざした町政と茶の間のかけ橋として、大きな役割を担ってきたと思います。

今日は、広報委員の立場でこれまで体験されてきた想い出や、広報読者アンケートの結果などを交えながら、町の情報紙「広報あさひ」について大いに語りあっていただきたいと思います。

まず四百号をふり返ってみますと、第一号には町誕生のもようや町長職務執行者のあいさつなどが掲載されており、第二号に初めて村山初代町長や議会、農協の代表による座談会が載っています。当時の町の課題などがよく話し合われている中で町長が「町発展の基礎は広報活動にある」と語っているのが印象的ですね。

昭和四十年三月の百号では、町の未来を鈴木二代町長と代表の方々が語りあっていますし、四十八年七月の二百号では志藤前町長と多田前広報委員長の対談が載っています。

清野さんは昭和四十三年から十二年間、広報委員をされたわけですが、まず当時の活動や思い出などを聞かせてください。

◇清野　若かったせいもあり認識不足で委員としての役目は果たせなかったのではと反省していますが、とにかく勉強になりました。

農業後継者の団体「進栄会」の代表という立場で、若い人の取材は一手に引きうけることになったんですが、原稿をまとめるのに苦労しましたね。しかし、先輩の方々から手をとって教えてもらったことや、夜取材に歩いたことなど良い思い出がいっぱいあります。

▨阿部　私の場合は、連合青年団長という立場で広報委員もやったわけですが、正直言ってあまり活動などの記憶がないんです。当時は団長になると自動的に十以上の役職がついて回り、同じ人が何にでも顔を出すという状況だったので、みんなで役割を分担することにしたんです。

　広報にはよく出させてもらったりもしたんですが、

大切にしたい手づくり感覚

▨司会　二年前から〝町民のひろば〟の二ページを全広報委員が分担して紙面づくりをしているんですが、小松さんいかがですか。

▨小松　わけもわからず引きうけてもう四年になりますが、ひろばとかほやほや新婚さんなど文章をまとめるのにひと苦労です。でも委員としていろんな人との出会いがあり、情報や話題が豊富になったことは、自分にとって一番プラスになったような気がします。

▨司会　青年達への期待がとくに大きかったこともあり、若さを前面に出すという編集だったようですね。

▨渡辺　私は当時〝はばたけ若人〟というコーナーを担当させてもらったんですが、初めての取材が同級生で大変な思いをしながら原稿を書いたことが忘れられません。毎月なのでだんだん書く人がいなくなってつまったこともありました。イラストなども頼まれたことがあったんですが、とにかく少しでも私たちの足あとが残っているということは嬉しいことですね。

広報座談会 出席者

●小松　敬さん
（今平・45才）
農業、昭和61年度より広報委員

●清野　正男さん
（古槙・47才）
農業、元広報委員（昭和43～54年度）、現在古槙公民館主事

●渡辺　久子さん
（大谷二・29才）
会社員、元広報委員（昭和57～58年度）

●阿部　為吉さん
（常盤・35才）
農業、元広報委員（昭和53～54年度）、現在白倉スキー学校長

●司会
鈴木久夫広報委員長
（沼向・63才）
昭和37～46年度広報委員、昭和61年度より現職、町芸術文化協議会長

●水沼　和子さん
（大谷７・45才）
主婦、平成元年度より広報委員、町体育指導委員

手づくりの良さというか、身近な話題を通して我々も参加しているんだという喜びは違いますね。

☒水沼　私も朝日町に来て五年目になりますが、早く町のことを知りたいと思い声をかけられるまま快く引きうけたんです。たしかに文章を書くことに誰でも抵抗はありますね。"ひとことトーク"の欄であるおばあちゃんに原稿を頼んで断られたことがあるんですが、まず話しようということで時間をかけて聞いてまとめたことがあります。まだ一年ですが、町民みんなに少しでも参加してもらおうという気持ちが私自身に芽ばえたことは良かったと思っています。

関心の高い"特集記事"

☒司会　ここで、先に町で行ったアンケートの結果を見ながら、ご意見をいただきたいと思います。

　まず問10で、一番関心をもって読むところは？について①特集記事（18・1％）②町政スポット（17・6％）③町民のひろば（16・7％）の順に多くなっています。その特徴として、特集記事は各年代にわたってよく読まれており、とくに若い層が多い。町政スポットや町民のひろばは、年代が高いほど多くなっている。カメラあんぐるやほやほや新婚さんなどは若い世代、戸籍の窓は女性層が多く見ているといった状況のようです。

☒阿部　町民のひろばは、身近な話題が多くて親しみやすいんですね。ただ、全体的に写真はもっといっぱい出してもいいと思うんです。町民の顔なんかも。

☒清野　アンケートの回答で若い層が半分と少なかったのは残念ですね。広報あさひのメインは特集記事だと思うんですが、もう少し若い世代の意見がほしいところです。

☒渡辺　私も会社の中で仕

「いつも読む」は80％

広報あさひアンケート調査より

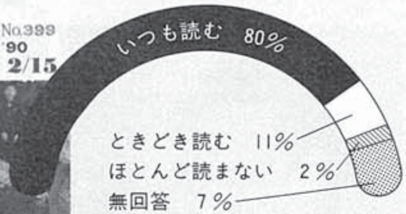
問6　世の中の話題を知る一番の情報源は？

- テレビ　61％
- ラジオ　6％
- 新聞　27％
- 人との会話　5％

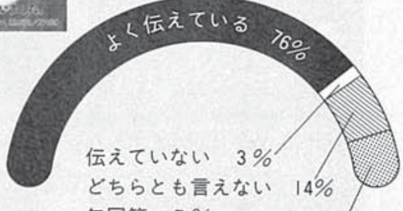
問7　広報あさひが発行されているのを知っていますか？

- 知っている　93％
- 知らない　1％
- 無回答　6％

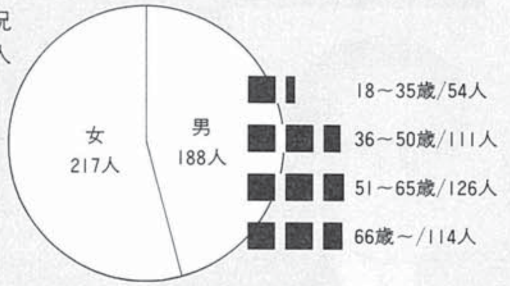
問8　広報あさひを読んでいますか？



問9　広報あさひは町の動きを伝えていると思いますか？



■回答状況
405人



●調査の概要

▶対象／18～80歳の方で無作為抽出
▶方法／郵送による無記名アンケート
▶とき／平成2年2月23日～3月3日
▶回答／600人のうち405人（男188人、女217人、回答率67.5％）

アンケートにご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

※ 問1 から 問5 までは、年齢などの一般的な質問事項です。

事の合い間に聞いてみたんですが、私達のような子育ての年代はどうしても時間がないせいもあって、サーッと見て、知っている人の写真なんかが出るとよく読んでみるというんですね。問12で、写真をもっとふんだんにとの要望もうなずける気がします。

特集を読んで感じることは、町民のことをよくみてくれている、町の動きをよく隅々までとりあげてくれているなということ。これをじっくりと読めば町の動きはよくわかるんですね。

知りたい情報をわかりやすく

◇司会　これからの紙面づくりについて、問12では①活字をもっと大きく（18・3ポイント）②写真をもっとふんだんに（17ポイント）③カラー写真がほしい（15・3ポイント）などの要望があり、紙面をもっと大きくという意見も多くなっています。

四月号より紙面を刷新する計画もありますが、今後のあり方についてどうぞ。

◇水沼　町の事業や町政の内容について、計画や結果のみを載せている場合がありますが、経過についてもとりあげてほしいですね。こう決まりましたというお知らせ的な内容でなく、なぜそうなったのかという経過を含め、町民に問題提起をしたり、いっしょに考えてもらうことが大切だと思うんです。

◇阿部　私もそう思います。行事やスポーツ大会の結果なども、生涯学習の分野で別に発行するとかお知らせをじっくりと読めば町の動きはよくわかるんですね。

◇小松　表紙についての関心度が低いのは意外です。広報委員会でも結構苦労して毎回議論してますが。

◇阿部　表紙はやはりパッと見て中味に入ってしまうため、どうしても印象に残りにくいのだと思う。私はその月に合った素材をよくタイムリーにとらえてるなと感心してますけど。

関心のある記事のトップは〝特集記事〟

問10　一番関心をもって読むところはどこですか？

●男　性

町政スポット	22.3%
特集記事	21.4%
町民のひろば	16.7%
戸籍のまど	10.0%
ほやほや	5.4%
みんなの教育	5.0%
カメラ	4.8%
スポーツ	4.5%

●女　性

町民のひろば	16.8%
特集記事	15.4%
戸籍のまど	14.7%
町政スポット	13.5%
ほやほや新婚さん	9.0%
カメラあんぐる	6.7%
みんなの教育	5.8%
スポーツ	3.5%

●全体

1.	特集記事	18.1%
2.	町政スポット	17.6%
3.	町民のひろば	16.7%
4.	戸籍のまど	12.6%
5.	ほやほや新婚さん	7.4%
6.	カメラあんぐる	5.8%
7.	みんなの教育	5.5%
8.	スポーツの話題	4.0%
9.	今月の顔	2.6%
10.	せせらぎ	2.2%

タブロイド版からＢ５判に変わった42年９月号（130号）

広報について熱い論議が交された

町民のエネルギーの象徴として

版に載せるやり方もありますし、結果だけでなく考えてもらう紙面づくりを望みますね。それと、合併浄化槽特集のようなシリーズでとり上げる方法は良いと思う。ただもう少し現場の生の声がほしいところです。

◇清野　前はよく町民の声が寄せられたわけですが、記名でなくてももっと自由に誰でも投稿できる雰囲気がほしいですね。どんどん意見や考えをぶつけあう〝読者の声〟のコーナーなどはぜひ必要です。

◇渡辺　問14で、特集としてとり上げてほしい話題について①高齢化対策（15・6ポイント）②健康づくり（11・2ポイント）③若者定住対策（10・8ポイント）となっていますが、自然観の経営や町の事業の中味など、私たちが本当に知りたい情報をわかりやすく提供してほしいですね。

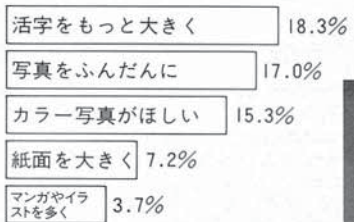
◇司会　町民が最も求めている情報をいかにわかりやすく提供するかということは、広報の大きな使命でもあるわけですが、どういう問題をどのようにとりあげていくか、今後の活動への提言などをどうぞ。

◇阿部　やはりいま一番関心が高いテーマは、オープン後の朝日自然観の経営はどうなのか、ふるさと創生の一億円はどのように使われるのか、議員定数の問題はどうなったのかといったことだと思うんです。

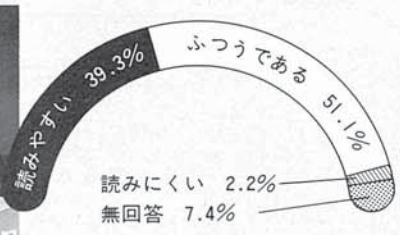
やはりこれまで広報がと

広報あさひアンケート調査より

問12　広報紙の紙面づくりについて要望は？

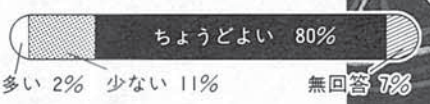


問11　広報あさひは読みやすいですか？

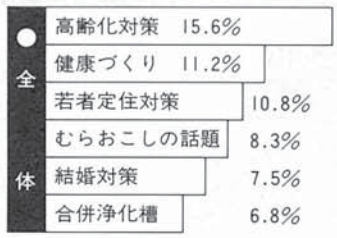


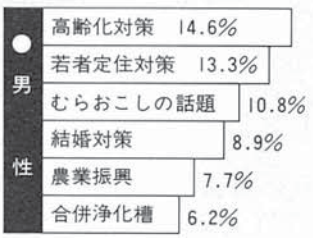
●「読みにくい」方の理由
- 活字が小さい
- 文章表現が固い
- むずかしい言葉が多い

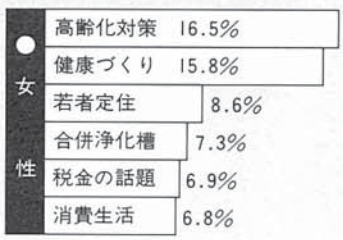
問13　ページ数はどうですか？



問14　特集記事としてとり上げてほしい話題は？







おめでとう！400号

●多田　秀雄さん

（本町・60才）

前広報委員長（昭和47～61年度）商業、本町区長

「自然観」がオープンした。観光による村おこしは、まず住んでいる自分たちが楽しく感ずるものでなければいけないし、教育、産業、福祉などすべて町づくりのトータルとしてつくりあげるものだと思う。そして夢とロマンは欠かせない。「自然観」を頂点に各々の立場でどう結びついていくか、みんなで考えあいたいものだ。

わが町は味の宝庫であり、知恵を結集して食の産業をぜひ興したい。西欧は小さい田舎へ行くほど村全体が公園といった趣きで、清潔感に心が洗われる。そんな景観づくりができないだろうか。農業や若者定住、高齢化対策と課題は山積している。いずれも住民の関心と連帯感なくして解決できるものは一つもない。自治体広報への期待が高まる中で、400号を迎えたことを心からお祝いするとともに、これを機に果敢な発想と問題提起で常に生き生きとした町づくりをリードされることを期待したい。

り上げてきた課題をさらに追跡して、ありのままに問題点を投げかけるようなことをぜひやってほしい。

◇**渡辺**　いまの三点は私達も一番興味のあるところですね。〝追跡ルポ〟とか、取材班を組んでとり上げてもおもしろいのではないでしょうか。

◇**清野**　たしかに問題点もいろいろあって、とり上げ方がだんだんむずかしくなるのはわかりますが、現状をさらけ出してみんなでいっしょに考えてもらうという方向でいいと思います。

広報は、町民の意識とかエネルギーの象徴でもありますし、意識の高まりが良い広報づくりにつながるわけですから。

◇**水沼**　そういう意味では各年代や異業種間の話し合いを活発にやって、問題提起をしたり、町づくりに積極的に参画していく姿勢が私達に求められているということになるでしょうね。

◇**阿部**　とくに若い世代、これから町を担っていく青年に対してもっとアピールしていくことが必要です。ただ家に寝に帰るだけという青年が多く、どうやって手にとって読んでもらうかという問題は残りますが。

◇**小松**　いま各部落でいろいろな村おこしとか、自前の部落づくりにとりくんでいるところが多いわけですから、シリーズでとり上げてもおもしろいですね。

◇**水沼**　二月号の〝郷土の人物記〟は感動しました。前に連載していたような郷土の歴史や人々など、ふっと昔を思い起こさせるようなコーナーもぜひ。

◇**清野**　行政と町民のパイプ役として、地域づくりやいろんな活動のテキストとしても役立つように、五百号めざしてさらにレベルアップされることを期待しています。

◇**司会**　いま広報あさひは町外にも三百部ほど送付しています。単に町内だけに止どまることなくアンテナをさらに高くして、世界の中の朝日町として飛躍するためにも、情報を集め発信していきたいと思います。

今後ともご支援とご協力をよろしくお願いします。長時間にわたりありがとうございました。

全国広報コンクールで活躍した〝選手たち〟

「自然観」は臨時職員の裏方さんたちで支えられている。調理場で働くみなさん

「朝日自然観」の人材確保に第三セクターの会社設立

4月から「営業」スタート
臨時職員の雇用安定をはかる

昨年十月にオープンした朝日山麓家族旅行村「朝日自然観」。「観光」という町営事業としての新たな分野の「むらおこし」に、町民の期待と合わせ町内外の関心を集めています。

同施設の経営にあたって当初から課題の一つとされているのが、ホテルやコテージなどの施設従業員として働いている臨時職員の、長期的な雇用安定対策。現在、支配人を筆頭に施設の事務や専門の調理業務に従事する十一人の正規職員のほか、調理助手や配膳係、また施設内外の整備作業員として通年雇用の臨時職員十四人が従事しています。

これら自治体に働く臨時職員は、法的に雇用期間が一年までとされていることや、その身分や労働条件は不安定。町の観光施設として永続的なサービス向上をはかる上から、これらの雇用対策は急務です。

そこで、町では臨時職員で対応している業務を委託できる、第三セクター方式の会社設立について民間経営者らに打診。このほど有志七名の協力を得て「株式会社朝日町産業開発公社」の設立にこぎつけたもの。同社の資本金は五百万円。設立時発行株式は百株で、町が八十株、民間が二十株の割当となっています。

同社では現在、正式な会社としての登記事務をすすめる一方、四月からの業務受託の内容や方法を検討。計画としては当面、役場敷地内に事務所を置き、町の臨時職員を中心に「社員」として採用。身分や賃金を確保し、「朝日自然観」の単純業務や町営バス「ふるさと号」運転業務などの受託業務に社員を派遣することにしています。

同社の会社役員は次の方々です。

代表取締役社長／清野寅男（四ノ沢）**取締役**／遠藤四郎（栗木沢）・五十嵐清之助（中沢）・鈴木與一郎（大町）・永井一省㈱サンライズ社長）**監査役**／菅井敏夫（西町）・川嶋正一（大町）

くらしに〝遊ぶ〟ゆとりを

後継者対策協議会が家庭づくり講演会開く

「若者に出番を」と語る佐藤講師

後継者の結婚対策などに町ぐるみでとりくんでいる後継者対策協議会（会長・小林町長）が三月六日、農業団地センターで「家庭と成婚」をテーマにした講演会を開きました。

これは、これまでの活動を通して家族ぐるみで結婚問題を考えようと、第一線で活躍している結婚相談員の協力を得て開いたもの。講師は鶴岡市で養鶏を営み、農家経営の面から後継者対策にとりくんでいる佐藤祐三氏。

「結婚対策はまず家庭経済の確立から」「後継者には早目に経営をまかせ親はアドバイスを」「若いうちには〝遊び〟を大切に」「チャンスは必ずある。家族ぐるみでつかむ努力を」「心ゆたかなぬくもりのある家庭づくりを」「アンテナはより高く、情報は自ら発信を」といった話に六十名の参加者はうなずきながら聞き入っていました。

くらしの向上を願って清き一票を投じる

投票率　91.40%
県一区で第１位の高率

衆議院議員総選挙の結果

１月25日の解散を受けて２月3日に告示された衆議院議員総選挙の投票が、同月18日に町内20の投票所で行われました。

昨年７月の参議院議員選挙で与野党逆転の結果ともなった焦点の「消費税」問題など有権者の関心も高く、また、当日は２月にはめずらしく雪のない春のような好天に恵まれ、町の投票率は91.40%と県１区で第１位の高率となりました。

今回は最高裁判所裁判官の国民審査も合わせて行われ、投票所で色別の２枚の投票用紙を渡された有権者らは、思い思いの候補者に清き１票を投じていました。

開票は同日午後７時30分から中央公民館で行われ、午後11時に得票が確定。朝日町における各候補者の得票は次のとおりです。

衆議員議員総選挙開票結果

候補者名	得票数	党派等
鹿野　道彦	2,242	自民・前・当選
近藤　鉄雄	1,898	自民・前・当選
遠藤　　登	1,252.604	社会・新・当選
榎本　和平	995	自民・前
遠藤　武彦	406.196	自民・前・当選
遠藤　利明	413.199	無所属・新
今泉　義憲	142	共産・新
得票総数	7,349	小数点以下は案分票
無効投票数	50	うち白票16
投票総数	7,399	有権者数 8,247

災害、これでひと安心
石須部区の砂防事業完成

石須部区の伊勢鉢沢に建設が進められていた荒廃砂防ダム工事と流路工事がこのほど完了しました。

この事業は同地区の人家四十五戸、耕地約五ヘクタールを土砂災害から守るため、公共事業として寒河江建設事務所の手で昭和五十九年から六年間の年月と約二億三千万円の事業費が投じられたもの。「これで安心して生活ができる」と同区民は喜んでいます。

これら堰堤（えんてい）事業は、大きく分けて二種類。山林や耕地などを守る治山事業と人家、公共施設などを災害から守るための砂防事業があります。皆さんのお近くにも、危険な沢などがありましたら区長さんを通して役場へご連絡ください。

りっぱに完成した水路

お米の話
農産加工まつり **米料理展** から

農協婦人部による農産加工まつりが２月11日、農業団地センターで開かれました。その中で、米の消費拡大をねらいとした米料理展コーナーが設けられ、婦人部員らの自慢の料理68点が出品されました。その中から１点をご紹介します。

やきもち

若月恵美子さん（西町）の作品

●材料/ご飯500g・たまご１ケ・みそ少々・さとう少々・小麦粉200g（５人分）
●作り方/材料をまぜてこねる。小判型にまるめ、フライパンで焦げ目をつけて出来上がり。

朝日町米消費拡大推進協議会

Asahi自然観

何して遊ぶ？

オープン最初のスキーシーズンを迎えた「朝日自然観」。暖冬の影響で雪が例年より少ないものの、週末には町内外のスキー客でにぎわい、宿泊客も遠くは仙台や関東方面から訪れています。

ペアリフトなど施設も充実した朝日自然観

朝日ナチュラリストの子供たちはかまくらづくりとカンジキに挑戦

ビニールシートでのファミリー号

童心にかえってのソリのりも楽しい

パトロール隊の遠藤さんと志藤さん。「スノーモービルのクラブもあれば楽しいね」

「子供たちの楽しい思い出になります」と、かまくらでの会食を楽しむご一家

かまくらの中から見た朝日自然観もステキ！

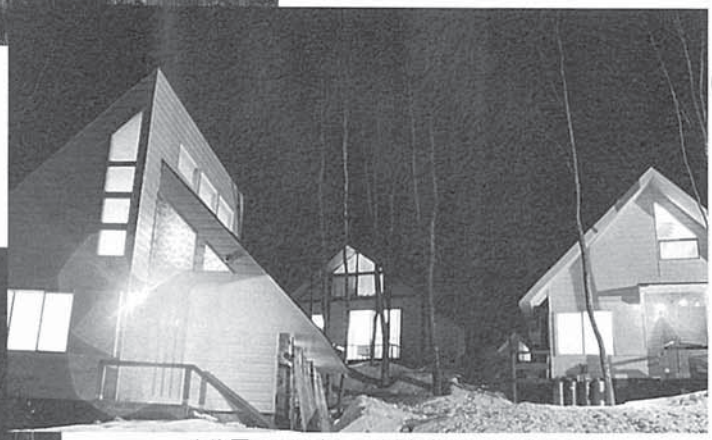
カメラあんぐる

面白ランド あなたなら

晴天に恵まれた三月十日、自然観の新たな試みとして「かまくら」まつりと花火大会が開かれました。十三の「かまくら」では、なべものを囲んでのパーティー。また、斜面を利用したソリレースやゲームも行われ、夜になると、銀世界に映える大スターマインの花火が星空に開花し、ファンタジックなひとときを楽しみました。

ここは、あなたの「面白時間」を創りだす自然と大地のアトリエです。

銀世界での花火は最高、またひと味ちがったファンタジックな夜を彩る



家族団らんの楽しい会話がきこえてきそうなコテージ村の夜は一段とロマンチック

夜のかまくら群は幻想の世界へといざなう
この広場で雪像コンテストはいかが？

（※主な写真は大町の長岡義夫さんよりお借りしました。）

"ぶなの実"ですよ！

子供たちの夢を大きくふくらませよう

子供は夢のかたまり。大きくなっても夢が多いほど楽しく生きられるのです。本の読み聞かせや人形劇などが、子供たちの成長に少しでもお役にたてばと願い、一緒に夢づくりの活動に頑張っています。

●おはなし会「ぶなの実」
代表　渡辺滝子

子供たちの目は、いつも夢と未来を追いつづける

楽しい物語を身近なものに

昭和四十九年、初代宮宿公民館長の佐直信雄先生のお力添えをいただき、公民館活動の一環として、本好きな子供たちを育てるために本の読み聞かせを始めてから十五年になります。

会員は現在十一人。本が好き、子供が好き、演劇が好き、そしてもちろん、夢をいっぱい持っている爽やかママさんたちの集まりです。おっと失礼、お嬢さんも一人おりました。

活動を初めた頃は、読み聞かせと紙芝居が主でしたが、それればかりでは魅力がないのではということで、今では工作やゲームを取り入れたり、手作りの人形劇やエプロンシアター、パネルシアターなどをとりまぜながら活動しています。

人形劇などは、せりふをテープに吹き込めば動作をもっとのびのびやれるのにという声もあるのですが、大変でも生の声でやろう、子供たちには生の声を聞かせてやりたいという思いで頑張っています。子供たちとの「生のふれあい」が一番大切ですから。

子供たちと心を一つにしたい

忙しい世の中ですので、なんと言っても人形などを作ったり、一緒に練習の時間をとるのがなかなか大変で、いつも練習不足のまま出てしまっている感じで申し訳なく思っています。

今日は昔話を語る日だという時は、顔の表情はどうだろうか、必ず鏡の前で目の体操をしたり、頬を動かしたりして出掛けるのですが、初めて語る話とかになると練習不足もあって顔がこわばってくるようです。

そんな時、語り手ばかりのおしゃべりになっていないだろうか自問しながら、一人ひとりを見て語るようにすると、子供たちの目は自然と語り手に集中してきます。そうすると、自分も真剣に語らなければという気が起こり、一言一言にさらに心を込めて語ることができるようになります。

人形劇もそうですが、演じ手と子供たちの心が一つになり、一体になれた時、今日はよかったとみんなで喜び合い、やっていてよかったという充実感を味わうことができるのです。

紙芝居も、ここにしかない手作りのものをということで、絵を書くことに慣れていない私たちですが、何度も手直しをしながら、町内のおばあちゃんの話をもとに『かさじぞう』を作りました。語りの言葉も地元の方言を使っています。方言を大切にし、おらだな文化づくりをしていきたいと思っています。

本好きな子供はお母さんも本が好き

本は、自分で何回も読んでから読み聞かせをするようにしています。そうしな

ポケットからウサギさんがとび出すエプロンシアター(上)とパネルシアター(下)

子供たちの心はもう、物語の主人公といっしょ（読み聞かせ風景）

みんなの教育

いと作者の気持ちを忠実に伝えることができないからです。内容がどういう場面なのか、時折、表現の仕方がわからなくなって途中で子供たちに聞いたりすることもありました。しかしそうすることは、テレビを見ていてコマーシャルが入るのと同じだということを聞いて、やめにしました。

お母さんが子供に読み聞かせをしてやる時、二、三回読んでから、などという必要はないでしょう。そんなことをしていたら、読んでやれなくなる場合もあります。いつも愛情を込めて読んでやればよいのです。

子育てを思う時、親として失態ばかり演じておりますが、子供には言うべきことをきちんと言い、悪い習慣があれば厳しく叱って、なおるまでこれを正すことが大切でしょう。

読書の習慣を身につけさせるのも同じことが言えるかと思います。早ければ早いほどよく、乳幼児期から読み聞かせの習慣をつけておけば、きっと本好きな子供に育つと思うのです。

今は本離れの時代かも知れませんが、このような読み聞かせが実をむすんで、いつかまた、みんなが本好きの時代が来るのではないでしょうか。

ものの本には「低学年の場合は経験を広め、知識と情報を求め楽しみを得る。高学年は、それに加え教養を高める」のが読書であるとあります。みなさんはどんな目的で本を読んでいますか。どうやって本を読む時間をとればよいか、一緒に考えてみませんか。

「むかしばなしのおばちゃん」たちはがんばります

子供たちはなにかしら、お父さん、お母さんが喜ぶことをしたいとか、ちょっとしたことでも人が喜ぶことをした時など、とてもうれしいものですね。大人ならば、家族のため、人のためになることをしたいという気持ちをみんなが持っていると思うのです。

近年、おはなし会の活動を認めていただいて、いろんな賞を受けることができました。これは、とてもうれしいことです。大変光栄に思いますが、公民館に来る子供たちの顔が、以前より少なくなっているようでさびしく思います。

いつもお孫さんを連れていらっしゃる大町のおばあちゃんに「おはなし会はええもなあ」と言われたり、買い物をしていると、かわいい子に「むかしばなしのおばちゃんだ」と声をかけられたり、また、「やめねで、ずっと続けでけらっしゃい」と激励してくれた大沼のお父さん。

私たちはこれからも、こうした励ましの言葉を支えにして、少しでも夢をふくらませながら地道な活動を続けていきたいと思っています。ここまでやってきたことは、とりもなおさず私の宝であり、夢と生きがいですから。

ひろば

役員選出を明確化

中部若妻会で独自総会開く

中部地区若妻会（西沢敬子会長）の総会が三月四日に中央公民館で開催。

若妻会は組織上、婦人会に属することから、例年は合同で行われていますが、今回は、会長などの役員選出を明確化するため新たに独自の会則を設けることとなったことから、若妻会単独で開かれたものです。

また、この日は総会に先立ち、酒田市在住のフリーライター・水戸部浩子さんの「女・いきいき人生を行く」と題した講演も行われ「忙しい時こそ主体性を持って学ぼう」と六十四人の出席者に語りかけました。

働くお嫁さんの課題も多い（総会風景）

台所や風呂場を見直そう

栗木沢で「汚水」学習会

学習はつねに身近な課題から

県の「明るいむらづくり」推進地区に指定されている栗木沢区では、合併処理浄化槽の推進と相まって、台所や風呂場から流す汚水をテーマに二月二十八日、公民館で婦人を対象とした学習会を開きました。

最初に合併浄化槽のしくみのビデオを見たあと、水質汚染の大きな要因とも言われる合成洗剤から「石けん」使用を呼びかけている大江町の今田みち子さんを講師に、それらの成分や健康とのかかわりなどを学び認識を新たにしました。

いくつになっても 学び、遊び、励みます

●高齢者福祉大会開く

町長寿クラブ連合会と中央公民館の共催で行われた高齢者福祉大会には、町内各地から送迎バスで三百名の会員が集まりました。

午前中は、「老後の豊かさを求めて」と題して、元上郷小学校長の清野憲正さん（寒河江市）より、マイクも必要ないほど元気なお声でお話いただきました。

昼食後は、映画上映があり、メインの「ビンゴゲーム」です。手にしたカードの数字を五つ並べるものですが、倍率が二十倍の豪華景品をめぐって、大変なさわぎ。皆んな、舶来のゲームに夢中になっていました。

また、今年で三回目の手づくり作品展は年々出展者も増え好評。作品を手に取り、「むがす作たけなあ」と懐しくながめている人、「よぐこしゃたごど」と感心する人あり。楽しみとして作ると共に、つる細工など〝古き良きもの〟を絶やさないように頑張っていただきたいものです。

くらしの技に感心

会合では〝先輩たち〟はつねに前に座り積極的

町民の

福祉功労者として感謝状受賞

㈱東北コーオン朝日工場

受賞を喜ぶ鈴木工場長さん

県心身障害児者を励ます会（服部敬雄会長）主催の表彰式が、さる一月十八日県庁で行われ、㈱東北コーオン朝日工場（鈴木廣美工場長）が福祉功労者の感謝状を受けました。

これは、昭和五十五年から障害者を積極的に雇用し職場定着、雇用促進に努め障害者の自立更生に貢献してきたことに対するものです。現在八十七名の従業員のうち三名が障害者ですが、それぞれ無理のない作業で、みんなといっしょにはりきって仕事に励んでいます。

むらの芸達者たち集う

満員御礼 北部地区素人演芸会

広いホールもこの日ばかりはきゅうくつ

今年で十一回を数える北部地区素人演芸会が三月四日の日曜日、北部公民館で開かれ、歌や踊りでにぎわいました。

会場となった同公民館ホールは、観衆と出番待ちの出演者が入り乱れて、立ち見席もできるほどの満員御礼。名調子の司会者、大谷五の白田正昭さんの進行で詩吟や民謡、舞踊などに、愛好会や地域の仲間による合わせて二十八の演芸が披露されました。

特に日本舞踊や民謡に合わせた踊りでは、かわいい子供たちや婦人らが華やかなステージ衣装で登場すると、会場から大きな拍手とおひねりが舞台一面に投げ込まれ最高潮。また、舞台を終えた出演者がそれらを拾うしぐさも笑いを誘い熱気ムンムンでした。

極寒の葡萄の雫

「アイスエッセンス」の酔いごこち楽しむ

初春のワインパーティー

「アイスエッセンス」ワインは、みなさんの心も酔わせます

ワインにも旬（しゅん）がありますが、新酒「ヌーボー」を楽しめる秋の「ワインまつり」とともにワインファンの関心を集めるのが「アイスワイン」が発売される三月の時期。

このワインは原料の完熟ブドウをいったん凍結したものから、糖度の高い濃厚な果汁を取り出し、自然の寒気の中で特殊醸造された極甘口で女性向け。

今年二月、「山形果実酒製造有限会社」から「有限会社・朝日町ワイン」（五十嵐清之助社長）と親しみやすい社名に変更した同社ではワインの名前も「極寒の葡萄の雫（しずく）・アイスエッセンス」と変え、ラベルもこれまでとはひと味ちがったデザインにイメージチェンジ。三月七日の発売を前に発表会を兼ねたパーティーが三月二日、農業団地センターで開かれました。

電子オルガンの生演奏が流れるパーティー会場は、町内外の二百五十人のワインファンでぎっしり。入り口でワイン娘から手渡されたグラスを片手に、白とロゼのワインを味わいながらワイン談議。またアトラクションとして今はやりのビンゴゲームやワイン早飲み大会も行われ、参加者はワインとゲームに酔いしれていました。

本年度醸造した「アイスエッセンス」は白、ロゼ各一万本の限定販売。町内の酒屋さんには発売日前から予約注文が殺到し、ワイン工場では根強い人気にうれしい悲鳴をあげています。

ひなまつりの夕べに"音もだち"集う

あめっかぜコンサート

「僕のひこうき」を大合唱「青空へ飛んでけー」

「北のハートピア」でおなじみの混声コーラスグループ「あめっかぜ」による「音もだちコンサート」が三月三日、中央公民館で開かれました。

現在、同グループのメンバーは二十四人で、リーダーの松田昌弘さん（長沼）のオリジナル曲を中心に「ひめさゆりの花」や「我が大地の歌」など十数曲をさわやかなハーモニーで披露。

「みんなでうたおう」コーナーでは「僕のひこうき」の歌声指導やふたば保育園の園歌「風さん」を園児らと一緒に歌うなど「あめっかぜ」ファン百五十人が音楽の夕べを楽しみました。

また、ゲストコーナーでは、車イスのシンガーソングライター・寒河江市の芳賀吉則さんと聴覚障害者の音楽グループ「ラブ&ドリーム」が友情出演。それぞれ障害を克服しながら活動を続ける音楽の素晴らしさを、歌声を通して「音もだち」に語りかけました。

若葉マークの大人集まれ！

成人式は４月29日です

朝日町では例年、成人式を春に行っており、今年も「みどりの日」の４月29日に行います。時間は午前10時から。

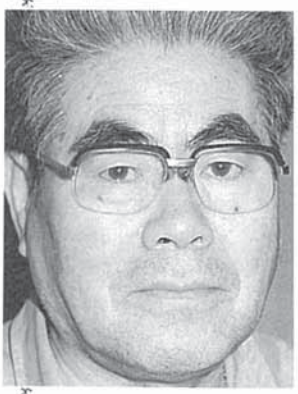
今年、成人式を迎えるのは昭和44年４月２日から45年４月１日までに生まれた青年たちで、町外に在住する町出身者を含め対象者は約120人。

今、新成人の仲間たちは、記念すべき成人式を自ら盛り上げようと実行委員会（渡辺康彦委員長）を作り、毎週水曜日の夜８時に中央公民館に集まって催しものを企画中。「同級生の顔を見たい人は集まって！」と実行委員会からの伝言です。

ぼくは委員長ではありません。だれでしょう？

今月の顔

第三セクターの㈱朝日町産業開発公社「社長」に就任した



四ノ沢　清野寅男さん（64）

昨年六月、宮宿郵便局長を退き「お世話になった町民に何か恩返ししたい」と思っていた矢先の今回の「社長」話。とまどいながらも「自分が役立つことなら」と快諾。これまでかかわりの少なかった「商法」をひもときながら、会社法人の登記や四月からの業務の打ち合わせに奔走する毎日。

「会社」と言っても、労働条件が不安定な「朝日自然観」などで働く町の臨時職員を、「社員」として雇用し受託業務に派遣する、いわば役場の「下請け会社」のようなもの。当面、社員の雇用安定と会社を軌道に乗せることが新社長に課せられた責務。もちろん無報酬の「ボランティア社長」。

今は地元の民生委員をされている奥さんと二人暮らし。趣味は「百姓仕事と山歩き」で、腰の「万歩計」をとりだしながら「歩くことが健康の秘訣」と語る清野社長の、五十年間にわたる通信サービス業務で養った「足腰」に期待されている。

りんごの花摘み
いも煮会

思い出を胸に　三十二人が船出

左沢高校朝日分校で卒業式

三月三日、左沢高校朝日分校の卒業式が同校体育館で行われ、今年は三十二人が十九人の先生方と七十四人の在校生に見守られ「船出」しました。

式ではまず、村形善男校長が卒業生代表の布施哲也くんに卒業証書を手渡したあと式辞を述べ、「社会は戦場、いつでもどこでも、だれからでも学びとる気持ちを忘れないでほしい」と激励の言葉を贈りました。

そのあと、小林町長ら来賓の祝辞と在校生の送辞に答え、卒業生を代表してあいさつに立った阿部るみ子さんは「学校林作業やりんごの花摘み、いも煮会は分校ならではの思い出。私達の愛した母校を一層盛り上げてください」と思い出の学びやに別れを告げました。

今年の卒業生の進路先をみますと、町内就業予定者は本校分校、合わせて五人となっています。

「若い船長さん」を固い握手で見送る

シニアクラスの試合も行われ、幅の広いスポーツ

団体戦

送橋チームが優勝

親子Wは阿部千尋、美奈組

第26回町民卓球まつり

気軽に楽しめる卓球をとおして冬季間の体力づくりと地区相互の親睦をはかろうと三月四日、町民卓球まつりが町民体育館で開かれました。

この日は団体戦に西町、送橋、常盤、夏草、三中、太郎の六チーム、個人戦には六十七人が参加。参加者は小学四年生から上は五十八才の方までと幅広く、それぞれのクラスに分かれ、熱戦を繰り広げました。

成績は次のとおりです。

■団体戦①送橋②夏草③三中

■個人戦（一位）◇小学男子／長岡昭彦（太郎二）◇小学女子／斎藤美穂（夏草）◇中学男子／村山修司（助ノ巻）◇中学女子／多田詩穂（太郎三）◇親子ダブルス／阿部千尋・美奈組（夏草）◇シニア男子／鈴木藤七（西町）◇シニア女子／尾形ちよ（八ツ沼）◇一般／清野雅英（送橋）

自然観の新ゲレンデに技とタイムを競う

白倉スキー大会

「朝日自然観」となって初めての白倉スキー大会が二月二十五日に開かれ、小学生など八十八人の参加選手らは、新設されたゲレンデの回転コースに技とタイムを競い合いました。

第六回を数える今大会は当初、十八日に予定されていましたが、衆議院議員選挙の投票日となったことから競技役員の関係で延期。そのためほかの町のスキー大会と重なり、町外からの参加者が少なく、その点ではさびしい大会となりました。

各クラスの優勝者は次のとおりです。

男子回転◇小学四年／岡崎稔（水本小）◇小学五年／大井修（立木小）◇小学六年／阿部勝志（宮宿小）女子回転◇小学五年／伊藤彩（大江町）◇小学六年／成原千明（宮宿小）一般男子大回転／阿部啓（常盤）

優勝者に金メダルを授与

◆なつかしい烟台に到着

午前八時、ようやくにして烟台市（山東省）の領域を汽車は走る。いつも車で訪問する村々が見えてくる。なつかしい思いでいっぱいだ。長い長い汽車の旅も終わろうとしている。

午後二時過ぎ、車内放送が流れる。「上海を出発して二十六時間三十分、烟台に到着します」とのこと。今の日本では考えられない汽車の旅だ。烟台の駅に降りたら、旧い友達が大勢出迎えに出ていてくれた。

◆その後の中国のりんご

一九八七年五月に本紙と「農協だより」に紹介しましたが、その後のりんごの値段とか大きさ、糖度など調べた範囲のうちからお知らせします。

上海で一日観光のかたわら、りんごの値段など調べてみたのですが、大きさは中国で育種された品種やデリシャス系統、国光などは二五〇グラム程度で、値段は一キログラムで三元から四元、日本円で九十四円から百二十円くらい。ふじの方は一キロ六元から八元、日本円で百八十九円から二百五十二円くらいです。大

なぎなたの演技や親子対抗試合を披露

◆水戸大会へ向け大谷剣道まつり

大谷剣道スポーツ少年団の第十五回剣道まつり・錬成大会が二月二十一日に開かれました。

錬成大会の会場となった北部体育館では、開会式のあと、山形大学に通う白田伊織さん、沙織さん姉妹による「なぎなた」の模範演技が披露され、普段見る機会の少ないめずらしい武道に、会場から大きな拍手が送られていました。

勝敗はどちらに？熱の入った試合を展開

また、十四組の親と子による二世代対抗試合も行われ、伝統ある大谷剣道の層の厚さを披露したあと、小中学の各クラスごとに分かれ、気合いの入った錬成試合が行われました。

午後は会場を北部公民館に移し剣道まつり。父兄らと一緒にもちつきをして、まつりを祝いました。

同少年団ではこの一年、県内で開かれた主な剣道大会を制覇し、完全優勝する快挙を成し遂げています。

さらに今年も三月下旬に行われる水戸全国大会への出場も決まっており、今期大会での上位入賞が期待されています。

沼向

菅井 功さんの中国訪問紀行（後）

（1月5日～25日）

JSV派遣技術交流日記から

きさは三百グラムが主流。しかし、実験園場のものは三百グラムから三百五十グラムのものが生産されていることがわかりました。

◆剪定（せんてい）は低コスト方式

さらに、ふじの糖度は普通販売されているものを屈折糖度で測ってみると、二十個のうち二個だけは一五・五%、あとは一六%前後。昨年の日照時間は二千七百時間。降水量は四百五十ミリでした。着色と糖度の関係からみると、着色程度は薄い紅色程度で、これらの問題は継続して調査しなければならないと考えています。

また実験園場では、昨年から樹下は麦わら被覆で整枝。剪定は日本でやられている方式は実用化しておらず、私の指導を応用した発想と中国の台木に従った合作方式を採用しながら、世界でやられている低コスト方式をとっており、中国全土の注目を集めています。

◆地道に進めたい国際協力

今、中国で働いている世界各国からの援助専門家は約二千人。うち日本人は五百人くらい。私の所属しているJSV（日本シルバーボランティア協会）で参加している人達は百人前後で私に課せられたりんごの整枝剪定合作指導技術交流は五回を終わりました。

振り返ってみると、過去においての日本との戦争による被害、今なお貿易の中で生まれてくる経済摩擦の弊害が、私達が行っているボランティア活動の中にもひしひしと迫って来ることが度々あります。りんごの苗木が日本からどんな経路で中国に導入されたのか知る間もなく、経済的手段のみに走り、誠実のない国際援助の体制に疑問を感ずるのです。

まだまだ続く、続けなければならないこの活動を、友好を築きながら地道に進めたいと思っています。

（おわり）

剪定の技術指導にあたる菅井さん

ほやほや新婚さん

大町／鈴木俊一さん　良子さん

♪おだいり様とおひな様、ふたりならんですまし顔♪ひな祭りを再現したようなお二人の結婚式。お母さんを早くに亡くし、若い時から苦労つづきの「とけい屋の俊ちゃん」、この日は最高の笑顔。町内新宿育ちの良子さんは、東京で生活をしてきただけにセンスは抜群。新装オープンした時計店に彼女がいるだけで、宝石や時計がどんどん売れそうだ。早い春の訪れにV！

（広報委員　今井仁志）

＊すこやかに（出生届）

区名	出生児氏名	父名
大谷六	白田美里（みさと）	和則
能中	渡邊千晴（ちはる）	政一
栗木沢	五十嵐悠輝（ゆうき）	修一
大町	阿部将寿（まさとし）	寿男
送	橋渡辺彩佳（あやか）	豊文
西町	白田透（とおる）	昭義
中沢	五十嵐朗（あきら）	平一郎

＊やすらかに（死亡届）

区名	死亡者氏名	世帯主
栗木沢	遠藤みや子	克則
大隅	大竹近	敦
西船渡	鈴木はつ子	昭
前田沢	鈴木林之助	金助
川通	志藤ミつ子	新七
舟渡	五十嵐ふと之	雄
立木	松田うん	道善
栄町	村山エン	喜一
下芦沢	阿部美代子	正春
大谷三	白田與藏	富彦
大谷六	川村三次郎	慧

＊人口と世帯数

2月28日現在（対前月）

人口　一〇、八一〇（△二）
男　五、三六三（△五）
女　五、四四七（△六）
世帯数　二、五九六（一）

善意のかご

町育英会へ寄付

●大町の海野冨太郎さんから、町育英会へ十万円をご寄付いただきました。

●大谷一の白田八十二さんから、町育英会へ十万円をご寄付いただきました。

白鳥へ「愛のえさ」をありがとう

役場庁舎内に設けてある「白鳥の愛のえさ」箱に、たくさんのご提供をいただき、上郷ダムの白鳥たちに代って御礼申し上げます。

長寿クラブ連がぞうきんを贈る

朝日町長寿クラブ連合会では、このほど婦人部員を中心に持ち寄った手ぬいのぞうきん、千五十枚を町内の学校や公民館など二十二の公共施設に贈り、環境美化に一役かっています。

この活動は昭和五十九年から行われているもので、そのお礼にと小学校などから手紙や作文が寄せられ、同会員らは心の交流に胸をはずませています。

▶宮宿小学校から届いたかわいい感謝状と手紙

せせらぎ

▼高齢化が進んでいる。うれしいことである。米寿や白寿を超えて「茶寿」の時代にはいる。「茶」という字は、冠の二十と八十八の幹を合わせて百八となるので、その年齢になった祝いが茶寿である。▼広報あさひが四百号を迎えた。すばらしいことである。朝日町誕生と同時に創刊された町報が町当局はもちろんのこと町民のあたたかい支援によって今日に至ったことを思うと、感慨深いものがある。▼初代町長村山善一郎氏、続いて鈴木幸次郎氏、志藤武志氏、そして小林富蔵氏と町政が継承されてきた三十六年の間、町は幾多の修羅場を通り抜けてきたと言ってもいい。それだけに町への愛着は深まる。▼ふるさと朝日町に生き、朝日町とくらす人々の心をつなぎ、町づくりを信条とする「広報あさひ」が町民の限りない御支援をテコとして、さらに充実することを願っている。（杉）

広報あさひ　400号　発行/山形県朝日町　編集/朝日町広報委員会　平成2年3月15日発行　印刷/山形市　豊田太印刷所